

① 土製耳飾り

時代：縄文時代後期以降
 出土地：あがた駅南遺跡
 材質：土製品
 寸法：直径約 6 cm
 所蔵：栃木県教育委員会



約 3000 年前に作られたとみられ、耳たぶの穴にはめ込む様式のもので、渦巻文を基調とする繊細な文様を施し、朱やベンガラで赤く塗られています。縄文時代に生きた人々の独特の美意識や技術の高さが伝わってきます。

② 人物埴輪(童女)

時代：古墳時代
 出土地：葉鹿町熊野古墳^{くまの}
 材質：土製品
 寸法：(左) 残存高 31.2 cm (東京国立博物館蔵) (右) 残存高 31.5 cm (足利市教育委員会蔵)
 所蔵：東京国立博物館、足利市教育委員会

約 1450 年前の古墳時代に作られた童女の埴輪です。頭の上に髪を束ね、額には細い線で櫛が彫られ、頬には赤い彩色がみられます。この埴輪は群馬県綿貫観音山古墳から発見された《三人童女》(国宝)とよく似ていることから、同じ工人集団により作製されたものと考えられています。



(左) 東京国立博物館蔵《童女》(右) 足利市教育委員会蔵《童女》

Image:TNM Image Archives

③ 大日如来坐像(国重要文化財)

時代：鎌倉時代初期
 材質：木造、漆箔
 寸法：高さ 32.1 cm
 所蔵：菅田山光得寺

その作風から運慶作と伝えられるこの像は、今からおよそ 820 年前の鎌倉時代前期に作られました。足利氏第 2 代当主であり、鎌倉殿(源頼朝)の義弟でもある足利義兼^{よしかね}が創建した樺崎寺に《大日如来坐像》は安置されていました。その後、光得寺へ移されました。今回ふると足利での像の展示は実に 32 年ぶりになります。



菅田山光得寺蔵 国重要文化財《大日如来坐像》

画像提供：東京国立博物館

Image:TNM Image Archives